

令和３年度
第３回杉戸町環境審議会会議録

期 日 令和４年３月１１日（金）（書面開催資料送付）
場 所 書面による開催

会議録様式

審 議 会 名	令和３年度 第３回杉戸町環境審議会
開 催 日 時	令和４年３月１１日（金） 「書面開催資料」を委員へ郵送 （意見提出〆切：３月２５日（金））
開 催 場 所	（書面による開催）
会 議 の 議 題	「第２次環境基本計画における望ましい環境像の検討」 について
公開・非公開の別	公開 ・ 非公開 （公開の場合傍聴者数 ０人） ※書面開催のため、傍聴者なし。
	（非公開の場合理由） 通常は公開で開催しているが、新型コロナウイルス感染症拡大予防対応の必要から、書面による開催としたため。
出席委員氏名	藤城一巳 木村芳裕 高崎勝美 坂本正博 戸賀崎邦雄 山崎雅男 中村和孝
審 議 の 概 要	・ 別紙のとおり。

令和3年度 第3回杉戸町環境審議会

審議会開会・ 閉会の日時		書面による開催 (令和4年3月11日(金)付、資料郵送)			
議事名		令和元年度杉戸町環境基本計画 第4期実施計画の取組状況について			
委員の出席について	職名	氏名	出席状況	氏名	出席状況
	1号委員 (関係団体を代表する者)	藤城 一巳 早乙女行雄 木村 芳裕 高崎 勝美	出席 欠席 出席 出席	高橋 明	欠席
	2号委員 (関係行政機関の職員)	福田 真道	欠席		
	3号委員 (識見を有する者)	坂本 正博 秋元 智子 佐藤 杉弥	出席 欠席 欠席	戸賀崎 邦雄	出席
	4号委員 (環境保全に関心の高い者)	山崎 雅男 湯ノ口 政明	出席 欠席	遠藤 清 中村 和孝	欠席 出席

	役職名	氏名	役職名	氏名
説明者	(書面開催のため、会場での説明はなし)			
事務局	環境課長	小野寺 満	環境課 主幹 // 主査 // 主事	成島 靖一 岩瀬 正治 橋本 和幸

発 言 者	発 言 の 内 容 ・ 説 明 等
— 高崎委員 山崎委員	書面開催のための配布資料について 新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、第3回会議は「書面による開催」としたため、下記の資料を各委員に郵送した。 ①令和3年度第3回環境審議会の書面開催について（通知） ②書面開催の概要について ③杉戸町環境基本計画における望ましい環境像の検討 ④環境に関するアンケート調査結果報告書 ⑤町民ワークショップ報告書 ⑥審議事項に関する意見提出用紙 委員より提出された意見 （上記送付資料⑥意見提出用紙によって、各委員から提出された意見に加え、事務局からの回答を以下に記載） ○資料③ 6 ページ 3. 第2次杉戸町環境基本計画における望ましい環境像（案）について ・全般的な意見として ➡環境に関するアンケート調査結果報告書、p58 の回答内容に「バイク、自転車であれに騒音が聞こえる～」とありますが、「自転車」ではなく「自動車」の誤りではないでしょうか。 事務局より 回答内容からは「自動車」の誤りと考えられますが、住民からのアンケート回答のため修正等せずそのまま記載しております。 ○資料③ 1 ～ 3 ページ 1. 関連する計画・条例等からのキーワード抽出について ・ p 3 杉戸町環境基本計画からのキーワード抽出 ➡「歴史ある街並みとの共存」が抽出されているが、宿場町として発生・発展した 400 年、町内各所に残る史跡の保存管理と次世代に引き継ぐ努力は重要です。「宿場町巡り」を始めとする観光活用のみならず、町民一般、年少者にも郷土愛増進の為より一層の P R が必要と考えます。

山崎委員	事務局より 前計画でも掲げられた重要なキーワードとして次期計画にも取り入れられるよう、ご意見は環境像の検討に活かしてまいります。 ○資料③4、5 ページ 2. アンケート調査及びワークショップからのキーワード抽出について ・ p 4 アンケート調査からのキーワード抽出 ➡住まう人間ならば誰もが「水が澄み、緑が豊かで空気がきれい」を望ましく言うであろうが、人口減、特に生産年齢人口が減っている現実を考えると、いずれ「チョウチョ、トンボばかり飛んでいる老人ばかりのゴーストタウン」となってしまう。根本的に他地域からの世帯単位の転入（生産年齢層と年少者）を図らねばならず、その為には就労施設の誘致と一方で子育て支援、福祉への重点施策が必要、車の両輪となる。
山崎委員	事務局より 環境基本計画は総合振興計画に示す町の将来像を「環境面から実現する」計画であるため、人口減少や子育て支援等を直接的に扱うことはできませんが、ご意見は今後の計画策定に活かしてまいります。 ○資料③4、5 ページ 2. アンケート調査及びワークショップからのキーワード抽出について ・ p 5 ワークショップからのキーワード抽出 ➡「農地・緑の減少」について 生産年齢人口の減少に加え、農業の担い手の高齢化により農地が減るのは必然であるが、根本的改善は難しく、増加する非生産緑地をどう活用するかが現実的。徒に非生産緑地を残しても町の発展には繋がらない。 事務局より ご意見は、今後の施策検討に活かしてまいります。

山崎委員	○資料③ 6 ページ 3. 第2次杉戸町環境基本計画における望ましい環境像（案）について ・環境像の項目（2）水と緑豊かな四季の変化に富んだまち ➡豊かな自然は重要であり理解するが、前述の様に人口減問題と の中で、どう人口増と共存させるかが課題 事務局より 環境基本計画は総合振興計画に示す町の将来像を「環境面から実現する」計画であるため、人口減問題等を直接的に扱うことはできませんが、ご意見は今後の計画策定に活かしてまいります。
山崎委員	・環境像の項目（3）環境負荷の少ない脱炭素・循環型のまち ➡ゴミ問題（家庭系ゴミ）は近隣市町との差異、比較で改善指向して欲しい。 事務局より ご意見は、今後の施策検討に活かしてまいります。
山崎委員	・環境像の項目（4）うるおいや安らぎがある暮らしやすいまち ➡郷土愛を養生させる町造りが必要 事務局より ご意見は、今後の施策検討に活かしてまいります。
山崎委員	・全般的な意見として ➡幅広い環境問題であり、総花的になるのはやむを得ないが、より身近な具体的文言・内容で提言したい。 事務局より 環境基本計画は、町の環境について幅広く方針を示す計画ですが、具体的な文言で杉戸町らしさを表現できるよう、ご意見を活かしてまいります。

中村委員	○資料③ 6 ページ 3. 第2次杉戸町環境基本計画における望ましい環境像（案）について ・全般的な意見として ➡権現堂の桜、草加松原の松並木、日光の杉並木のように、杉戸といえこれだというのが欲しいですね。『その他プラ』のリサイクルの流れをPRすべき。 事務局より 計画書の中で杉戸町の長所もPRできるよう、表現を検討する中で、ご意見を活かしてまいります。
戸賀崎委員	○資料③ 6 ページ 3. 第2次杉戸町環境基本計画における望ましい環境像（案）について ・全般的な意見として ➡大変よくまとまっている。しかし、実施段階では変更・組み替えもあると思う。 事務局より 今後、具体的な施策について検討する際は、町の施策については関係各課と、住民・事業者の取組については関係団体と意見交換を重ね、実効性のある計画を目指してまいります。
木村委員	○資料③ 1 ～ 3 ページ 1. 関連する計画・条例等からのキーワード抽出について ・p 1 総合振興計画からのキーワード抽出 ➡「みんなで育てる」とは、全員参加のようでありながら、誰も実行しないという不確実性がある。「みんなで」きちんと役割分担を決め、そして、決まったことは分担に基づいて実行する、そういう意味が込められたものを付加すべきです。 目指すところが、「豊かな自然」というが、それは生物の多様性を保全できる持続可能な社会、というように具体化しないと、結局、お題目で終わってしまう。実のある表現を付加してほしい。 「魅力ある」も抽象的で、魅力は人によって異なる。あいまい

	な表現は意味がない。生物の多様性、資源の保全と温暖化・地球環境の保全という意味の持続可能なまち、というように補強すべきです。 事務局より 環境基本計画は、町の環境について幅広く方針を示す計画ですが、具体的な文言で、それぞれの方針を正確に表現できるよう、ご意見を活かしてまいります。
木村委員	・ p 1、2 杉戸町環境基本条例からのキーワード抽出 ➡基本条例では具体的になっていて総合振興計画よりもずっとよくできている。 ただ、実行されなければ意味がない。「すべての者が自主的に」とは、いい言葉だが、これは役割を明確にし、責任ある体制を作らないと空論に終わってしまうので要注意です。 例えば住民参加の仕組みを作り、その権限も明確にすべきです。 事務局より 杉戸町環境基本条例の基本理念部分からの抽出であるため、表現が抽象的となっていることに留意し、計画の推進体制等を検討する際にはご意見を活かしてまいります。
木村委員	
	・ p 3 杉戸町環境基本計画からのキーワード抽出 ➡持続可能な町、生物の多様性などの言葉が出てきているが、当時の時代背景の中で温暖化は今ほど顕著ではなかったために、エネルギーや温暖化への言及が少ない。もっと、明確に表現すべきです。 また、計画にある数値目標などがほとんど達成されていないことから、計画をどう実のあるものにするか、そのための行政の具体的計画・体制・仕組みづくりが求められるので、盛り込むべき。 事務局より エネルギー及び温暖化は近年の環境問題の中でも特に注目されているため、今回の計画策定においても重要な分野として扱ってまいります。また、目標達成に向けた体制作りを検討する際には、ご意見を活かしてまいります。

木村委員	・ p 4 S D G s からのキーワード抽出 ➡ S D G s は国連の継続的な取組から発展したもので、ぜひ、実現できるように取り組むべきです。全町民的に実践できるよう 1 7 の目標をしっかりと学習し、体制づくりを構築できるように、もっと具体的な取り組みを表記して欲しい。 事務局より S D G s を基本計画に取り入れ、また各分野における S D G s 達成に少しでも近づけるよう、施策や推進体制を検討する際には、ご意見を活かしてまいります。
木村委員	資料③ 4 , 5 ページ ・ p 4 アンケート調査からのキーワード抽出 ➡ 町民のイメージする環境像が見えて良かった。キーワードにある通りだと思うが、気候変動については適応だけでなく、C O 2 削減のための再生可能エネルギー導入の促進など「緩和」の取組も忘れないでほしい。 ただ、望むだけでは保全できない。町民の意思・意欲がこれでは見えないし、関心をどう高めるかも、具体的に取組の明記も必要です。 また、自然環境は何もしなければ開発によって自然に消滅していきます。開発に規制をかけるように、自然保護区域を設けることもどこかで明記してほしい。 事務局より 気候変動に関する「適応と緩和」や自然環境を保全するための取組について、具体性のある表現とできるよう、施策を検討する際はご意見を活かしてまいります。
木村委員	○資料③ 6 ページ 3. 第 2 次杉戸町環境基本計画における望ましい環境像（案）について ・ 環境像の項目（2）水と緑豊かな四季の変化に富んだまち ➡ 望ましい環境像にある自然環境はぜひ、残して欲しい。第一次計画では計画にもかかわらず縮小してしまった。自然保護区域を設定し、保全するようにすること。

木村委員	事務局より 自然保護区域の設定等については、第2次計画の計画期間内で検討していく可能性もございますが、検討の際はご意見を活かしてまいります。 ・環境像の項目（5） 一人ひとりが考え、みんなで環境問題に取り組むまち ➡「みんなで育てる」とか「すべての者が自主的に」などについて。住民・事業者・行政はそれぞれ何をするのかを、多くの町民が参加のもとで体制と役割、目標を決め、そして、権限も明確にして取り組む必要がある。 また、意識を高めるためには住民が主体となって、観察会、学習会、意見交換会、行動、見学会などを計画・実行すべきで、そうした仕組みは行政が作るしかない。 その活性化のためには、町民の意思を行政が素直に受け取り、実現の手助けをすることがどうしても必要です。行政は住民を主人公にした対応を基本にする、ということを明記して欲しい。 住民の意識の向上なくしては何も実現しないので、基本として位置づけるべきです。 事務局より 環境基本計画を推進するための主体は住民・事業者・町の3者であり、各主体はそれぞれ環境に対する責任を自覚し、環境問題の解決に自主的に取り組み、また相互に連携・協力していくことが重要であることが、現行計画に明記されております。 町は計画策定により大まかな方針を示し、自ら事業を実施しながら住民と事業者の活動も支えてまいります。住民・事業者が主体性を活かして独自の活動・仕組み作りを行うことも考えられ、また推奨されるものと考えます。 令和元年度に発足し、現在も精力的に活動している「すぎと環境会議」などはその好例と言えるため、次期計画の検討にあたって各主体の自主性及び連携・協力の重要性は引き継いでいきたいと考えております。 ・全般的な意見として ➡総じて、どうともとれる玉虫色の計画あるいは作文にはしない
木村委員	・全般的な意見として ➡総じて、どうともとれる玉虫色の計画あるいは作文にはしない

	でほしい。何をどういう体制で、いつまでに、どこまでに到達させるのか、具体的なものにして欲しいのです。私たちや子や孫たちの未来がかかっているのです。 事務局より より具体的で実効性の高い計画及び施策を検討するため、ご意見を活かしてまいります。 坂本委員 ○資料③ 1～3 ページ 1. 関連する計画・条例等からのキーワード抽出について ・ p 1 総合振興計画からのキーワード抽出 ➡「みんなで育てる」については、行政先行で強力な推進・指導力が必要。 事務局より 現行計画にも明記されている各主体の自主性及び連携・協力の重要性は引き継いでいきたいと考えておりますが、実効性の高い計画策定のため、ご意見を活かしてまいります。 坂本委員 ・ p 1、2 杉戸町環境基本条例からのキーワード抽出 ➡「すべての者が自主的に取り組む」については、行政先行で強力な推進・指導力が必要。 事務局より 現行計画にも明記されている各主体の自主性及び連携・協力の重要性は引き継いでいきたいと考えておりますが、実効性の高い計画策定のため、ご意見を活かしてまいります。 坂本委員 ・ p 3 杉戸町環境基本計画からのキーワード抽出 ➡「自然が共生するまち」については、杉戸の自然は、水や緑で農業による二次的自然であり農業を支援することが必要 事務局より 環境基本計画は総合振興計画に示す町の将来像を「環境面から実現する」計画であるため、農業支援等を直接的に扱うことはできませんが、現行計画でも環境の目標として「食糧・農業・農村」を掲げており、間接的な扱い方になる可能性はございますが、ご意見は今後の計画策定に活かしてまいります。
--	---

坂本委員	○資料③4、5 ページ p 4 アンケート調査からのキーワード抽出 ➡アンケート回収が559では町民の意見を反映しているとは思えない。アンケート結果をグラフにしてもページを増やしただけで、エクセル的成果で調査に値しない。 事務局より 今回のアンケートは町民 1,000 人を対象として実施し 559 名から回答を得たものでございますが、町の人口約 44,000 人を母集団とした場合に信頼性のある結果が得られる回答数は 380 程度となり、今回のアンケートではそれを上回る結果となっており、コンパクトな実施ではございますが信頼性の置ける回答数を得られたものと考えております。 本アンケート結果を計画策定に効果的に活用できるよう、ご意見を活かしてまいります。
坂本委員	p 5 ワークショップからのキーワード抽出 ➡ワークショップ参加者に偏りを感じる。3 ページの意見だけ、考察や提言がない。 事務局より 今回のワークショップを開催するにあたり、時間的制約や感染症対策等、現行計画の策定時とは異なる状況がございましたので、町民の皆様が日常的に感じている環境に関する問題意識等を、短期間で抽出できるよう開催形式等を工夫して実施いたしました。 本ワークショップ結果を計画策定に効果的に活用できるよう、ご意見を活かしてまいります。
坂本委員	資料③6 ページ 3. 第2次杉戸町環境基本計画における望ましい環境像（案）について ・環境像の項目（1） 魅力ある資源を活用し、持続的に発展していくまち ➡杉戸町の魅力ある地域資源とは何か 事務局より アンケート・ワークショップ等の事前調査結果から今後、策定作業を進め、計画書へ反映してまいります。

坂本委員	・環境像の項目（２）水と緑豊かな四季の変化に富んだまち ➡農業の保護、保全、支援が必要 事務局より 環境基本計画は総合振興計画に示す町の将来像を「環境面から実現する」計画であるため、農業保護等を直接的に扱うことはできませんが、現行計画でも環境の目標として「食糧・農業・農村」を掲げており、間接的な扱い方になる可能性はございますが、ご意見は今後の計画策定に活かしてまいります。
坂本委員	・環境像の項目（４）うるおいや安らぎがある暮らしやすいまち ➡うるおいや安らぎとは。公園が少ない、体育館運動場がない、郷土資料館がない 事務局より アンケート・ワークショップ等の事前調査結果から今後、策定作業を進め、計画書へ反映してまいります。
坂本委員	・環境像の項目（５） 一人ひとりが考え、みんなで環境問題に取り組むまち ➡みんなで取り組む 行政組織の姿勢、努力が不可欠 事務局より 現行計画にも明記されている各主体の自主性及び連携・協力の重要性は引き継いでいきたいと考えておりますが、実効性の高い計画策定のため、ご意見を活かしてまいります。
坂本委員	・全般的な意見として ➡住民主体でなくコンサル主導。アンケート・ワークショップに30歳未満の将来を担う人の意見が重視されると良いと思う。 事務局より 住民主体で長期間をかけ準備を行った上で策定された現行計画をベースとして、第２次計画を策定してまいります。町の環境をよりよいものとして将来の世代に引き継ぐという現行計画の目的に沿えるよう、ご意見を活かしながら、アンケート結果等を活用してまいります。 以上